

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第255回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

恵比寿の閑静な住宅地で、魅力的なデザインの建物を見つけた。まず、一見して外観がおしゃれだ。バルコニーは集合住宅で最初

に目に入る部分で、一般にアルミの堅格子や

おしゃれな外観デザイン

すりガラスの手すりです。覆われている。しかし、その建物はレンガを積み上げた市松模様を斬新だ。手すりではあまり使わない、しかし、普通の材料を使いながら造形の美を創り出す方法に意表を突かれた。通風、日照を確保しつつ、適度に視野の遮断と確保を両立し、重量感のある天

然の無垢材料を軽い印象で使う点がおしゃれだ。次に、スッキリとした軽快感だ。建物外壁面がほとんどサッシで壁仕上げ部分が少ない。全面ガラスが可能な外部仕上げは、どうすれば実現することができるか疑問に思い、調べた。

鉄筋コンクリート造では、柱や梁の屋外側を外部仕上げする必要があ

シユのガラス面とすることができ。その結果、重い感じの外壁面が少ない軽快なデザインとなる。

外観からは分らないが、柱型や梁型が現れないため室内空間は開放的で、かつ、効率的な利用が可能と思われる、この点もおしゃれ度を高める。更に、リズム感のある調和だ。この建物の2つの特徴である前述の2点を外壁全体で表現している。細くした柱型と梁型をそのままへ

斬新なレンガ積みバルコニー

る。それ以外の部分にサッシを付けるが、一般的なラメン構造では柱型や梁型が大きく、外壁面にはタイルやペンキなどの外部仕上げ部分が、住戸正面の両側や上側に広く存在することになる。

ランタ先端まで持ち出したとおもえる無彩色のコンクリートが縦横の格子をつくり、その中に暖色の市松模様のレンガが納まっている。大きなリズムと小さなリズム、暖かさと同様の対比と調和が心地よい。

これに対して、柱は戸境壁方向に細長く扁平させ、梁は梁成を低く扁平させた扁平ラメン工法を採用して外壁面に現れる柱型や梁型を小さくすると、外壁面のほとんどをサッ

住みたい街ランキングの上位にある恵比寿だが、学生の私は、閑静な住宅地にある住宅のデザイン性と商業エリアの華やかさのギャップを感じた。そのギャップを魅力と考える

には、多くの街や建築、そして生活を体験する必要がある。だが、普段訪れることはない高級感あふれる住宅街を、ゆっくり歩きながら見たことは、建築デザインを学ぶ者には楽しい時間であった。

【教員のコメント】
コンクリートの造形では沖縄に優れた伝統がある。沖縄に学んだ風情をもつ、自然との共生を意識した打ち放しの集合住宅が東京都心において若者が感銘を受ける。同様に入居者が集まる。どこでも価値を生み出せることが建築と不動産の魅力だ。



普通の材料を使い造形の美を創り出す



内藤 希
不動産学部4年